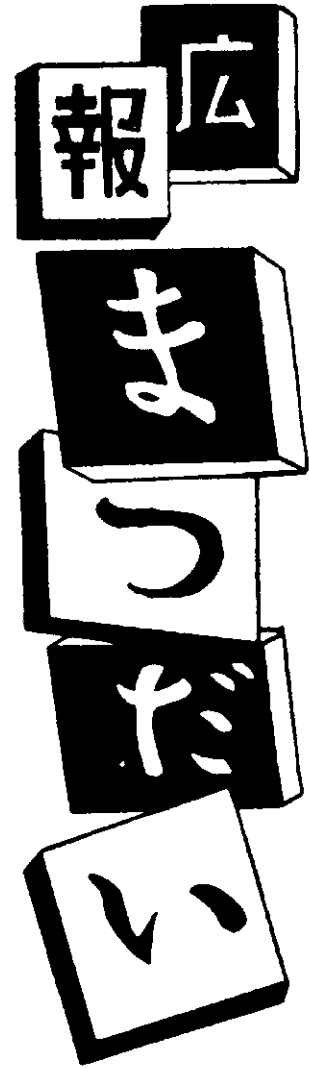




昭和52年3月10日発行
第208号
新潟県松代町公民館
電話松代 7-2301番
印刷・松代印刷所

昭和52年度予算

特別会計を合せて

総額二十二億四千万円

一般会計は十七億一千万円

前年比三五・八%増

主要事業は

◎ 統合中学校建設	二億三千万円
◎ 農業生産基盤整備	二億八百万円
◎ 町道改修・舗装等	一億五千万円
◎ 住宅建設	六千八百万円
◎ 駅前整備	六千万円
◎ 林道整備	五千三百万円

三月九日から十二日まで会期四日間にわたり町議会が招集され、昭和52年度一般会計歳入歳出予算のほか数多い案件が付議されております。

議会の結果については次号で詳細をお知らせいたしますが、今回は特に皆さんの関心の深い一般会計予算の概要を主に、原案説明書からひろい出しておしらせいたします。

特別会計を含む総予算額については、表1・昭和52年度会計別予算総括のとおりです。

一般会計には前記の統合中学校建設、農業生産基盤整備、町道改修・舗装等など大事業があり、前年比三五・八%の増額になっておりますが、特別会計では簡易水道事業会計が竣工したことにより前年比三億八千万円、八五・八%の減額になり、総計では約一億四千

万円、六・七%の増額になっております。

なお、国民健康保険特別会計の前年比六千六百万円、一八・七%の増額は、療養給付費が主因であり、その財源は国民健康保険税・一部負担金・国庫負担金及び補助金・財政調整交付金などで補われています。

一般会計の歳入歳出予算の総括は……表2・主要建設事業関係予算と財源の内訳は……表3・歳出の性質別予算額、そのうちの一般財源額（一般財源とは表2歳入の、市町村税・地方譲与税・自動車取得税・地方交付税と、財産収入・繰入金・繰越金・諸収入の一部を言い、そのほかは特定財源です。）と、その構成比は……表4、のとおりですのでごらんください。

表1 昭和52年度・会計別予算総括 単位：千円

区 分	本年度 予算額	前年度 予算額	比較増減	増減率
一 般 会 計	1,718,000	1,265,000	453,000	35.8%
国民健康保険特別会計	422,684	356,120	66,564	18.7
内 事 業 勘 定	383,784	317,223	66,561	21.0
診 療 施 設 勘 定	38,900	38,897	3	0.0
簡易水道事業特別会計	63,030	44,624	△381,594	△85.8
農業共済事業特別会計	42,101	38,995	3,106	8.0
総 計	2,245,815	2,104,739	141,076	6.7

表3 主要事業関係予算

単位：千円

事業名	事業内容	事業費	財 源 内 訳				一般財源
			国庫支出金	県支出金	起 債	その他	
庁用車整備事業	庁用車(ジープ)更新1台	1,800					1,800
消防施設整備事業	小型動力ポンプ3台	3,450	1,602				1,848
蒲生保育園増築工事	保育室(約14坪)増築	2,500					2,500
農業生産基盤整備事業	団体営ほ場整備 2ヶ所 9.9 ha	96,067		54,524	8,000	22,475	11,068
	地すべり関連ほ場整備 堰堤工、換地他	67,238		47,879	1,800	12,683	4,876
	県単ほ場整備 1ヶ所 3.2 ha	21,000		9,156		5,422	6,422
	町単ほ場整備 16ヶ所 7.0 ha	6,840					6,840
	町単農道整備 2線、砂利補	5,000					5,000
	農免道路整備 2線(負担金)	12,467			12,400		67
	育苗施設(太平地内) 鉄筋平屋建 1棟 パイプハウス30棟 農業機械購入(芝野地区) コンバイン 4台 トラクター 4台他	19,871		16,945			2,926
	集落開発センター 建設事業 木造二階建 1棟 99㎡(獨)	7,296		2,500			4,796
林道整備事業	林道開設工事(田沢下山) L=395M	41,260		30,400	4,500		6,360
	林道舗装工事(下山海老) L=456M	11,740		6,230	2,400		3,110
造林事業	町行造林 5 ha	3,525		2,877			648
町道改修事業	町道改修 7線 L=846M W=4~5M	32,200			16,600	5,000	10,600
町道舗装事業	町道舗装16線 L=4101M W=4~5.5M	96,910			57,400	10,000	29,510
町道改良事業	町道改良 1線 L=1068M(用品補償のみ)	6,000	4,000				2,000
駅前整備事業	駅前広場 約5200㎡ 駅前道路	60,000			30,000	20,000	10,000
橋梁架替事業	昭和橋1ヶ所 取付70M L=11M W=5M	16,100			16,100		
建設機械購入	湿地ドーザー 1台	7,900			5,900		2,000
公営住宅建設事業	プレハブ住宅 12棟	68,192	33,000		23,000		12,192
国県道工事負担金		12,000					12,000
統合中学校建設事業	校舎建築 鉄筋コンクリート4階1976㎡	207,500	100,300		77,100	30,000	100
	附帯工事費 (寄宿舎用地造成、他)	13,100				10,000	3,100
	用地買収補償(立木補償等)	800					800
	設計委託料、他	10,930				10,000	930
部落公民館改修工事	蓬平、海老2ヶ所	3,500					3,500

※財源内訳のその他は受益者負担及び積立金・土地開発基金等です。

表2 一般会計予算の総括

単位：千円

	款	本年度 予算額	前年度 予算額	比 較	予算構成 比率(%)
歳入	1.町	99,208	90,257	8,951	5.8
	2.地方譲与税	15,103	8,229	6,874	0.9
	3.自動車取得税交付金	10,700	9,911	789	0.6
	4.地方交付金	715,900	630,000	85,900	41.7
	5.交通安全対策特別交付金	320	0	320	0
	6.分担金及び負担金	54,107	41,787	12,320	3.1
	7.使用料及び手数料	5,738	3,189	2,549	0.3
	8.国庫支出金	207,102	98,194	108,908	12.1
	9.県支出金	204,928	139,231	65,697	11.9
	10.財産収入	17,360	14,587	2,773	1.0
	11.寄附金	0	360	△360	0
	12.繰入金	100,000	50,000	50,000	5.8
	13.繰越金	15,205	11,821	3,384	0.9
	14.諸収入	17,129	13,734	3,395	1.0
	15.町歳入合計	255,200	153,700	101,500	14.9
		1,718,000	1,265,000	453,000	100.0
歳出	1.議会費	26,869	23,588	3,281	1.6
	2.総務費	175,679	149,417	26,262	10.2
	3.民生費	146,527	163,777	△17,250	8.5
	4.衛生費	67,265	54,813	12,452	3.9
	5.労働費	130,67	11,739	13,28	0.8
	6.農業費	345,841	247,403	98,438	20.1
	7.商工業費	2,563	2,050	513	0.2
	8.土木費	381,925	284,013	97,912	22.2
	9.消費費	52,016	62,172	△10,156	3.0
	10.文教費	401,130	182,262	218,868	23.4
	11.災害復旧費	70,84	9,138	△20,54	0.4
	12.公債費	94,692	70,497	24,195	5.5
	13.予備費	3,342	4,131	△789	0.2
	歳出合計	1,718,000	1,265,000	453,000	100.0

一般会計歳出予算 主要経費 (建設事業を除く)	
克雪対策費	一千四〇五万円
社会福祉費	一千二五二万円
老人福祉費	四千四六〇万円
児童福祉費	六千六五二万円
衛生予防費	一千六二三万円
環境衛生費	二千七九六万円
衛生清掃費	一千四四九万円
道路管理費	一千七二六万円
建設機械運営費	一千六二九万円
常備消防費	三千四五二万円
消防団運営費	一千二五九万円
学校管理費	一億一千八六七万円
公債費	九千四六九万円

町の



畜産

—その1—

1. 昭和五一年度子牛生産状況
 度子牛の年間生産販売状況は別表のとおりである。
 米につぐ農産物として重要視され、昭和四六年度の二七頭の生産があったが年々減少してきている。
 昭和五〇年度の子牛価格は平均一四万であったが※

51年度 子牛生産販売状況一覧表

部落名	生産戸数	生産頭数			平均価格	競売代金計
		メス	オス	計		
太平	3	3	1	4	168,075	672,300
菅刈	1		1	1	163,500	163,500
小屋丸	1		1	1	212,100	212,100
池之畑	5	7	8	15	190,167	2,852,500
下山尻	4	3	2	5	216,980	1,084,900
池尻沢	3	1	2	3	210,400	631,200
会沢水	1	2	2	4	155,450	621,800
清蓬平	3	2	1	3	203,067	609,200
東山老	22	12	15	27	193,796	5,232,500
海山地	2	1	1	2	163,800	327,600
孟老地	1	1		1	134,500	134,500
片桐山	2		2	2	230,500	461,000
田倉納	4	1	3	4	198,900	795,600
仙之倉	1		1	1	190,000	190,000
仙納平	2		2	2	210,700	421,400
名平生	2	6	1	7	164,414	1,150,900
蒲明野	1	1	1	1	201,000	201,000
儀室	3	1	2	3	230,433	691,300
竹所	17	9	11	20	204,170	4,083,400
峠	1	6	2	8	177,938	1,423,500
計	4	3	6	9	203,856	1,834,700
	4	6	6	12	195,058	2,340,700
	87	64	71	135	193,597	26,135,600

表4 一般会計予算歳出の性質別状況

単位：千円

区分	52年度			前年対比			
	当初予算額	うち一般財源	構成比	①予算増減額	②一般財源増減額	①の比率	②の比率
1.人件費	291,126	265,440	170%	25,233	25,258	95%	105%
2.物件費	211,741	161,898	123	25,922	25,139	140	184
3.維持補修費	34,012	29,890	20	△2,664	△3,376	△73	△101
4.扶助費	71,189	15,855	41	11,222	4,900	187	136
5.補助費	115,680	112,207	67	16,518	16,035	167	167
小計	723,748	585,290	421	76,231	64,956	118	125
6.公債費	94,692	94,692	55	24,195	24,195	343	343
7.積立金	6,184	0	0.4	△423	0	△64	
8.投資及び出資金貸付金	2,304	2,028	0.1	△74	△173	△31	△79
9.繰出金	36,943	33,405	22	△135	△3,673	△04	△99
計(1~9)	863,871	715,415	503	99,794	85,305	131	135
10.普通建設事業補助単独	844,937	152,509	492	357,283	△6,875	732	△43
	546,148	45,985	318	341,588	11,607	1670	338
	298,789	106,524	174	15,695	△8,482	5.5	△148
11.災害復旧費	5,800	5,800	0.3	△3,338	△2,176	△365	△273
小計(10~11)	850,737	158,309	495	353,945	△9,051	712	△54
12.予備費	3,392	3,392	0.2	△739	△739	△179	△179
歳出合計	1,718,000	877,116	1000	453,000	75,515	358	94

※①の比率は、①予算増減額を前年度当初予算額で、②の比率は、②一般財源増減額を前年度当初予算一般財源額で、除(÷)したものです。

※五一年度は別表のように平均一九万円と五万円の昇降した。従って子牛販売状況は前年より頭数に於て一六頭、金額に於て九五〇万円上廻ったことになる。

2. 昭和五一年度畜産共進会成績

(1) 第二八回上越畜産共進会

昭和五一年七月一四日、直江津家畜市場で開催、本町より二頭出品、左記のとおり優秀な成績をおさめた。

(1) 繁殖牛の部

優秀賞第一席 松代町片桐山 柳 家一郎

(2) 肥育牛の部

優秀賞第二席 松代町竹所 中条 為栄

和牛去勢 三才体重六三五Kg

(口) 新潟県畜産共進会

昭和五一年一〇月一六日長岡市家畜市場で開催、本町より二頭出品したが惜しくも入賞を逸したが肥育牛は一頭一〇二万円で取引され喜ばれた。

(1) 繁殖牛の部

松代町竹所 佐藤 吉一

和牛雌牛 三才体重四八六Kg

(2) 肥育牛の部

和牛去勢 二才体重六七七Kg

販売価格 一〇二万円

老人生きがい対策

推進事業

松代町では、老人を対象とした陶芸教室、民芸、手芸教室、作品展示会、教養講座、スポーツ教室などを、老人憩の家渋海荘を中心会場として開催して皆さんに喜んでもらっています。

今後とも継続してこれらの事業を推進する考えですので、ともすれば引っこ込み勝ちな老後を、積極的に進んでこれらの事業に参加して楽しみながら教養を培うと共に、趣味をもち生きがいのある人生をおくって頂きたいと思っています。写真は、老人生きがい対策推進事業の一部です。



→ 楽焼の講習

文化刺しゅうの講習↓

↓ 老人の作った楽焼作品



循環器検診、出稼者検診の結果
コレステロール、中性脂肪の量が
正常値より高く、高脂血症と診断
された人がたくさんありました。
今回は、コレステロール、中性
脂肪についてふれてみたいと思
います。

コレステロール

とは何だろう？

●コレステロールの誤解

「コレステロール」という言葉
はもう中年過ぎの人なら知らない
人がない位になりました。

しかし、成人病の原因として悪
者扱いされているのが現実です。
人間の体にとって大切なものであ
るという知られ方は少いようです。

コレステロールは健康な人の体
内には脳神経、肝臓、血液、その
他の部分を合わせると一〇〇から
一二〇グラム近くもあります。そ
して脂肪の消化を助けたり、ホル
モンを作ったり大事な働きをして
います。

したがってコレステロールが減
少するとホルモンがつくれなかつ
たり、脂肪の消化が十分できなく
なったりします。

●とりすぎは動脈硬化のもと

このように私達の体にコレステ
ロールは大切なものですが、毎日
とる食べものの中に動物性脂肪や
コレステロールが多いと、血中コ
レステロールはどんどん高くなり
動脈硬化をすすめるやっかいなも
のとなります。

もちろん動脈硬化の原因はコレ
ステロールばかりでなく血圧、ホ
ルモンの作用などいろいろからみ
合って、長い年月をかけておこっ
てくるものですが、その中でも特
にコレステロールが重要な因子と
なると考えられています。

動脈硬化が長年の間には狭心症
や心筋硬塞といった恐しい成人病
をひきおこす危険があることはた
しかだといわれています。

中性脂肪

とは何だろう？

ふつう脂肪は酸性ですが、これ
が中性の脂肪ということですが、そ
の材料は砂糖や果糖のような糖質
アルコールなどです。

これらが体内に入ると肝臓で中
性脂肪がつくられ、これが血液の
中に出ていって皮下脂肪としてた
まったり、肝臓、心臓あるいは動
脈にも沈着します。

中性脂肪の多い状態が長く続く
と脂肪肝、心臓肥大、動脈硬化、
肥満症という状態がひき起されま
す。つまり甘いものを食べすぎる
酒をのみすぎるといふことで、血
液の中の中性脂肪がふえ、皮下脂
肪となつてきます。

糖質からくる脂肪ですが、コレ
ステロールと同じように動脈硬化
をすすませる大きな因子となつて
いると言われています。

検診で高脂血症と診断された人
や中年ぶとりなどでふとっている
人はコレステロールや中性脂肪を
多くしないように注意が必要です。
コレステロールは一日二〇〇グ
ラムくらいとれば足りると言われ
ています。

コレステロールの

多い食品

コレステロールの多く含まれて
いる食品は次のとおりです。なお
数字は一〇〇グラム中に含まれて
いる量です。

牛乳	27	30
チバ	72	78
鶏卵	273	(卵黄 1163)
豚肉	373	
鶏肉	420	
豚肉	467	
鶏肉	380	
豚肉	243	
鶏肉	155	
豚肉	148	
鶏肉	146	
豚肉	259	
鶏肉	199	
豚肉	59	75

中性脂肪を

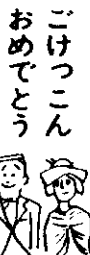
つくりやすい食品

何が中性脂肪を一番つくりやす
いかというと、最も強い働きをも
っているのが果糖です。果物が体
によいとか美容によいとかといっ
て食べすぎるのはよくありません。

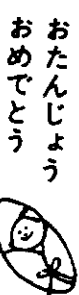
一日の果物は、ミカンM二(三
個、リンゴなら中位のを一個程度
にしましょう。

戸籍の窓口から

二月受付分 (受付順)



おたんじょう
おめでと
小堺幸二・嶋田幸子 千年もととしち



樋口 学 父勝彦 母旬子 長男松代金田屋

鈴木圭一 父明雄 母幸子 長男松代三ツ角屋

内山祐一 父孝 母米子 長男松代郵便局

池田正也 父正 母竹野 長男 蒔平岡院

仲村勝美 父忠勝 母君江 二女 儀明万蔵

小堺健一 父忠吉 母ヨリ子 長男 蓬平芋畑

山賀将司 父啓司 母かず子 長男 池之畑
いずみや



川崎サキ 八五才 桐山古右エ門
馬場米子 二八才 蒲生 古池屋
小堺セツ 五三才 儀明 上洲
石野カツ 七〇才 木和田原一野屋

人口のうごき

3月1日現在

世帯数 2039 (+1)
人口男 3,989 (+5)
女 4,042 (+2)
計 8,031 (+7)

出生 7 死亡 4
転入 13 転出 9
増計 20 減計 13

厳寒と降り続いた雪

松代高等学校

例年だと、立春がすぎると穏やかな陽気の日もあるのであるが、今年は再度の大型寒波の襲来できびしい寒さと雪が降り続き、二月六日ついに積雪量は三八〇cmに達し、二月七日には災害救助法が当面にも発令されました。

降雪と寒波は更に続き、二月下旬のはじめまで続き、二十四日ようやく南風北風の気圧配置となり、待ち望んだ春の陽気になりました。

この厳寒と大雪を、当校の気象観測データと過去のデータとを比較してみました。

“降雪は”

昨年暮れの二十六日夜から降り始めた雪は連日降り続き、(表1. 2、3、4を参照)一月中旬までと、二月上旬に多量の降雪になり積雪量は二月六日三六〇cm二月十九日に三二五cmと、再度三メートルの大雪をこえました。

降雪日数は(表4を参照)一月が二十九日二月が十九日で、一月の降雪量は七二一cmで昨年の七三六cmには及びませんでした。一月と二月の計では一、二八五cmとなり、また初雪から二月二十八日までの降雪量の計は一、五三四cmとなり、今世紀最大の豪雪といわれた昭和二十年以来の豪雪になりました。

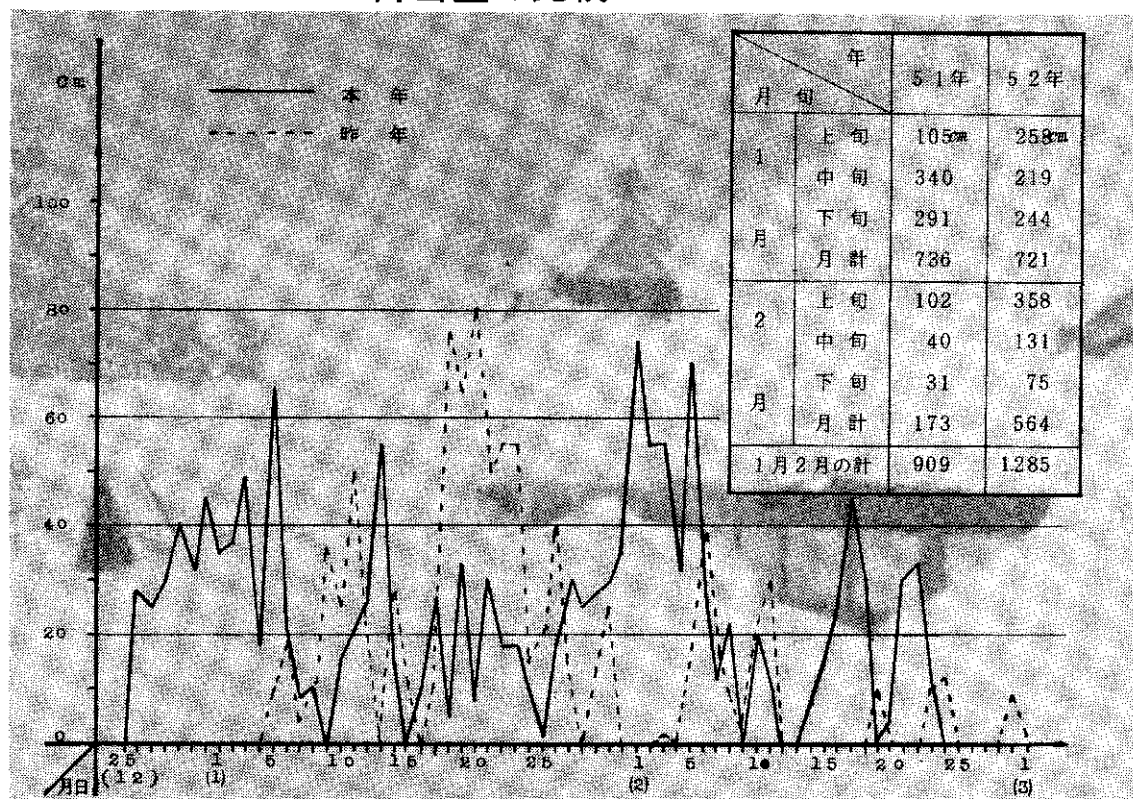
“気温は”

真冬日(最高気温がマイナスを示す日)と言われる日が、一・二月ともに十一日で計二十二日になり、(表4、5、6を参照)厳寒と言われた昭和四十一年から四十二年の冬の記録十七日をはるかに上まわりました。

また、真冬日の連続日数は七日間(一月二十八日から二月三日)で、昭和四十一年・四十五年・五十一年の六日間を上まわりました。更に、最低気温がマイナス1で

より低かった日が十三日もあり、本来なら晴れの日に起る輻射作用

表1 降雪量の比較 51. 12. 25~52. 2. 28



により気温が低下することが多いはずのものであるが、今年の場合には降雪日でも厳しい寒さが記録されました。

最高気温と最低気温を旬別にみますと、今年よりも寒い年もあります。今年のように一月・二月ともに寒い年は、昭和二十四年当校で観測をはじめて以来初の記録です。そして、昭和二十年の気温等の記録は当校にはありませんが、高田測候所の五〇年報によれば、最低気温は平年よりはるかに低いと明記されており、それに次ぐものとしても三十二年ぶりの連続的な寒さといえるようです。

いずれにせよ、昭和四十年代から現在までは寒い冬が多く、二十四年から三十九年までは少ないことが記録に表れています。

表3 天気と雪量

51. 12. 25
52. 2. 28

日	区分	1 月			2 月		
		9時の天気	降雪量	積雪量	9時の天気	降雪量	積雪量
52. 1. 1		＊	35cm	130cm	＊	74cm	250cm
2		＊	37	130	＊	50	300
3		＊	49	135	＊	50	310
4		＊	18	150	①	32	320
5		①	65	155	＊	70	322
6		＊	21	195	＊	28	360
7		◎	8	180	＊	12	345
8		＊	10	165	①	22	330
9		○	—	160	◎	—	330
10		●	15	145	＊	20	313
11		＊	20	150	＊	10	310
12		＊	26	150	○	—	305
13		＊	55	165	○	—	290
14		＊	15	198	●	7	273
15		①	—	185	＊	15	270
16		○	13	170	①	24	273
17		○	35	170	＊	45	285
18		＊	5	190	＊	30	315
19		○	42	180	○	—	325
20		＊	8	205	①	4	305
21		＊	30	195	＊	28	300
22		＊	18	210	＊	33	305
23		◎	18	215	＊	14	325
24		＊	11	195	○	—	323
25		◎	1	203	①	—	300
26		＊	18	190	①	—	282
27		＊	30	195	①	—	270
28		＊	25	210	○	—	265
29		＊	28	217			
30		＊	30	230			
31		＊	35	245			

凡 例

- 快晴
- ① 晴
- ◎ 曇り
- 雨
- ＊ 雪

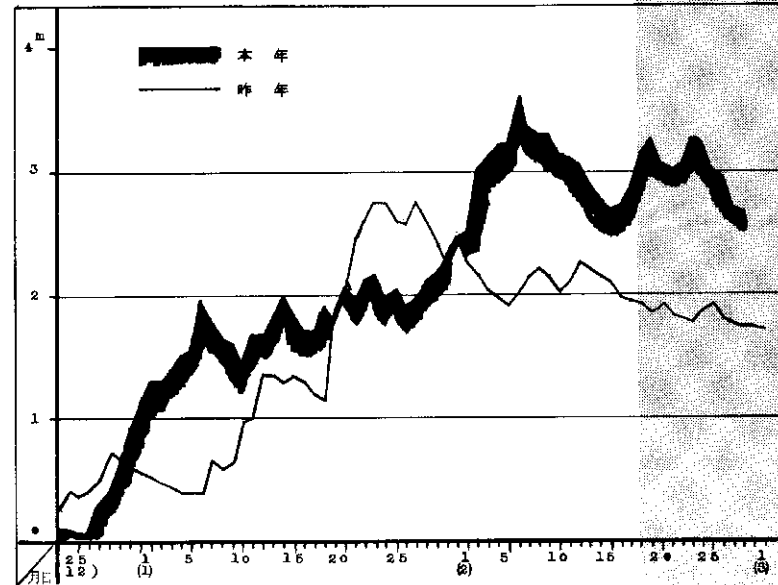


表2 積雪量の比較 51. 12. 25 ~ 52. 2. 28

日	区分	12 月		
		9時の天気	降雪量	積雪量
25		●	—	6cm
26		●	28cm	5
27		＊	25	30
28		＊	30	40
29		＊	40	60
30		◎	32	89
31		＊	45	110

◎最高積雪が三Mをこえた年は、比較的暖冬であった昭和二十年から三十九年の二十年間に七回、寒い冬の多い昭和四十年から今年までの十三年間に八回記録されています。

また、冬の天候以外でも昭和五十年夏の異常高温異常残暑や、昨年夏の異常低温など、ここ数年来異常気象が続いています。

表5 最高気温と最低気温 昭和47年～51年平均と
51.12.25～52.2.28の比較

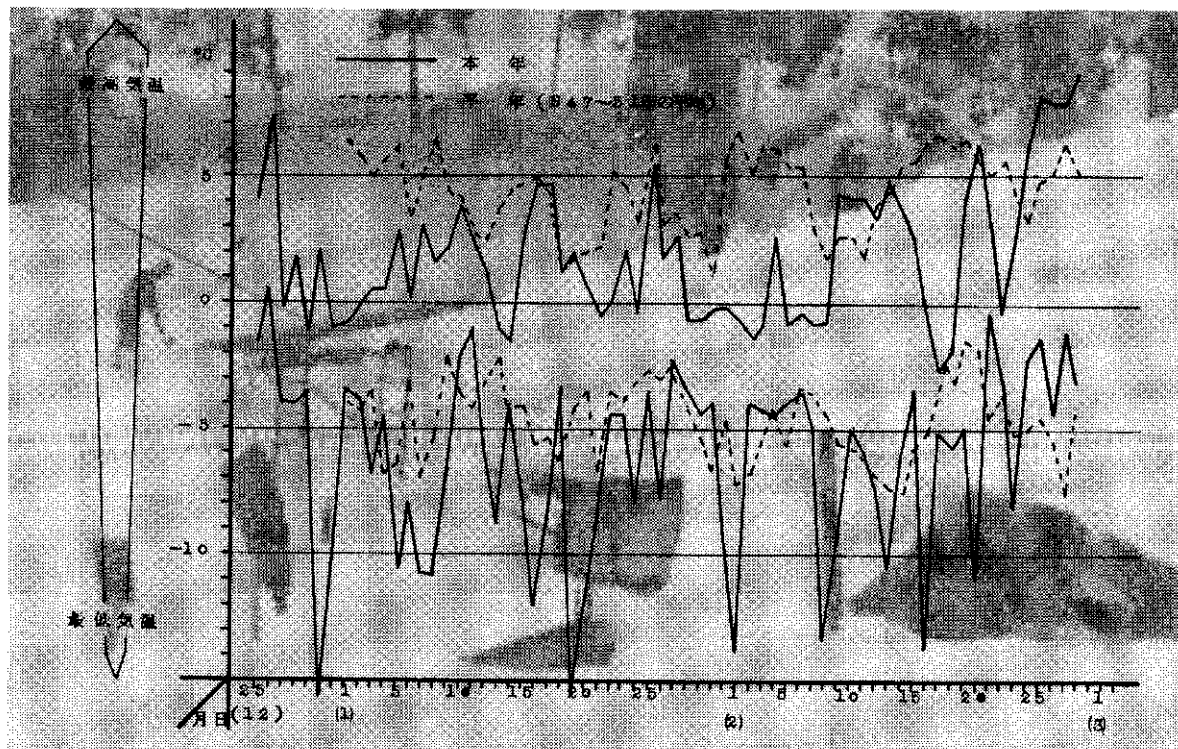


表6 過去の寒い年の温度

年 月旬	本 年		S 41 年		S 42 年		S 45 年		S 50 年	
	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低
1 月上旬	1.4℃	－6.8	3.4	－3.1	0.8	－3.3	2.3	－7.8	3.0	－7.3
中 旬	1.7	－7.6	1.9	－2.6	1.1	－7.0	1.4	－5.4	2.0	－4.6
下 旬	0.8	－7.4	－1.0	－6.3	3.7	－3.3	3.5	－8.8	4.5	－5.0
月 平 均	1.3	－7.3	1.4	－4.0	1.9	－4.5	2.4	－7.4	3.2	－5.6
2 月上旬	0.5	－6.9	1.4	－6.0	2.2	－5.1	1.2	－7.9	4.5	－7.7
中 旬	2.3	－7.4	3.2	－5.8	0.2	－5.8	6.0	－7.8	3.7	－6.5
下 旬	5.6	－3.4	3.0	－3.9	3.9	－3.0	3.9	－3.1	4.1	－7.8
月 平 均	2.8	－5.9	2.5	－5.3	2.1	－4.6	3.7	－6.3	4.1	－7.3

表4 昭和40年～52年の記録

項目 年別	1月と2月の記録				ひと冬の記録		備 考
	真 冬 日 数	真 日 冬 日 連 続 数	降 雪 日 数	降 雪 量	初 迄 の 降 雪 量 終 雪 量	最 高 積 雪 量 と 月 ／ 日	
S 40	3日	0日間	45	—cm	1150	235 3/11	
41	17	6	34	958	1396	345 3/7	
42	17	4	40	1138	1554	340 3/10	豪 雪
43	9	2	46	1270	1641	385 3/13	豪 雪
44	5	2	35	816	1146	265 1/6	
45	9	6	45	794	1770	325 3/2	豪 雪
46	3	2	40	670	1376	335 3/11	
47	2	0	28	291	820	150 3/6	暖冬小雪
48	2	2	29	411	972	186 3/7	暖冬小雪
49	5	2	46	798	1726	343 3/13	豪 雪
50	4	2	42	1020	1452	350 3/2	
51	7	6	40	909	1235	275 1/17	
52 (本年)	22	7	48	1285	1534	360 3/6	厳寒豪雪

参考

20						525 2/10	
30	11	2	39	934	2009	390 2/10	

※ 52年(本年)の数字は2月28日のものです。



近年不良気象が続いており、昨年の如きは、昭和年代では最悪の天候となって、米は勿論、総ての農作物が不作に終ってしまいました。

昨年は「えと」では辰年でしたが、私達農家にとっては全くたつ

五十二年の米つくりにあたって

農業改良普及所・若月

瀬がありませんでした。

◎已年は不作だろうか

今年は「已年」で昔から「已年の困窮」という言葉が残っていますが、それでは已年はいつも凶作なのでしょうか。

ごく昔のことは、資料がないので不明ですが、明治十六年以来過去七回の已年のうち、五回までが冷害のため減収しているということです。

しかし、已年以外の年に冷害がなかったかというところでもなく、子年、卯年の外はそれぞれ一、二回、申年には三回もあります、何といっても已年が断然多いようです。

それなら五十二年の天候は、と言われても、誰しも「ずばり」答えられる人はいないでしょうが、気象学者の話を総合すると、ここ暫らくはまだ不順の天候が続くと言われております。

過去にも二年続きの冷害が何回あったので、十分警戒しなければ

ばなりません、今年もまた不作というような事態が起れば、農家はみが持てないことになります。

◎作付にあたっての考え方

そこで昨年の稲作をふりかえって、今後の対策を考えようではありませんか。

まづ品種の問題で、昨年はフジミノリ・越路早生・五百万石等の早生種が「穂いもち」で大きな打撃を受けましたが、このような品種を作った農家が全部悪かったかというところではなく、平年と殆んど差がなかった人もあり、個人差が大きく見られました。

これから、作付品種の選定に当り、先づ「うまい米」「高く売れる米」を念頭におかなければならないが、同時に、自分の田圃に合った品種・無理のない品種を選ぶことが何よりも大切です。

いくらうまくても、収量が極端に少なければ経済的に損になるからです。

なお種籾の入手に当っては、品種の特性が判然とし、栽培法の確立したものを運び、雑品種を整理することも今後の一つの方向でしょう。

次に、この地方で収量のあがらない原因の一つに、植付けが遅れることが挙げられます。

融雪期の関係から、どうしても遅れがちですが、平場地帯より約一か月も遅れるので、昨年のように夏季低温の場合は出穂が遅れ、発熟時期の温度不足のため、稔実不良となる場合が多いので、稚苗の場合は五月二十日、成苗の場合でも五月いっぱいには田植が終るように努力したいものです。

◎減収の最大要因は穂いもち

昨年も、また昭和二十八年の凶作も、その最大原因は「穂いもち」の大発生にあります。

たしかに冷害による被害も大きい、それよりも低温多雨、日照不足によるいもち病の大発生が、減収度を高めております。

そこで、いもち病の多発地帯・常発田では、いもちの発生を最少限でくいとめるため、葉いもちの発生を未然に防ぐよう、発生前に粒剤を散布し（従来は発生してから粉剤を散布した）穂いもちについても、出穂初期と穂揃え期、穂揃え十日後の三回必ず薬剤を散布（出来得れば共同防除が望ましい）し適期防除を励行すべきです。

◎米は土で作る

いつも聞かされる言葉ですが、米づくりの基本は土づくりから始まると言われております。

そこで、近年やゝもすると軽視されがちな「土」の問題と真剣にとり組む必要があります。

当地方の田圃は、強湿田のため未熟堆肥の施用は、かえって初期生育を妨げ、害がありますが、完熟堆肥の施用をはじめ、珪カル・ヨーリン・含鉄資材の施用により土をこやし、健全な稲に育てて、完全なみが入るようになければなりません。

昨年のような災害に、二度と見舞われないために！！

掛金は、一日一元 交通災害共済 加入のすすめ

家族そろって加入しましょう

「交通事故」それはあまりにも悲惨であり悲しい不幸な出来事です。

事故が発生しないように、みんなの注意と協力を願うものでありますが、最近の交通情勢はご存知のように、自動車台数と交通量の急激な増加が大きな原因となり、事故はいつでもどこで、皆様のご家族に、また、自身にふりかかってくるかも知れません。

不幸にして事故にあわれたときのすくいとして、交通災害共済に加入いたしましょう。

ただいま区長さんをおして申込みのとりまとめをしていますので、すすんでご加入ください。

